

「主体的に学び、自分の考えを深める児童の育成」

～算数科における指導の個別化の工夫を通して～

1. 主題設定の理由

本校は、一昨年度、自力解決と学び合う力の向上を目指し、算数科における ICT を活用した研究を進め、昨年度は、算数科・体育科において自己決定の場面を設定した授業作りの研究を行った。算数科の授業実践を通して、導入において見通しをもたせ、自分に合った解決方法の選択をし、自力解決に向かわせる学習の流れが身についてきた。また、考えを深める練り合いの場面では、話し方や聴き方を意識させることでよりよく考えを深めることができるようになってきた。

しかし、市学力調査の結果を見てみると、「基礎」の正答率では、目標値と 10 ポイント以上差が開いている学年もあり、思うように成果が上げられなかった。それには、学級内での個人差が大きいことが一つの要因となっている。日頃の授業の様子からも、問題文の正しい読み取りや既習事項を活かした図式化などができていなかったり、自分の考えに自信が持てずに、課題解決の取り掛かりが遅れたり、対話的な活動が停滞したりすることも見受けられる。また、家庭学習への取組にも差があり、教師が与える課題を“こなす”という状況の児童がいることも事実である。このような、学級内の大きな個人差に対応するためには、普通の授業改善と家庭学習のさせ方の工夫など、全体指導の充実と個に応じた指導の充実を図ることは言うまでもない。

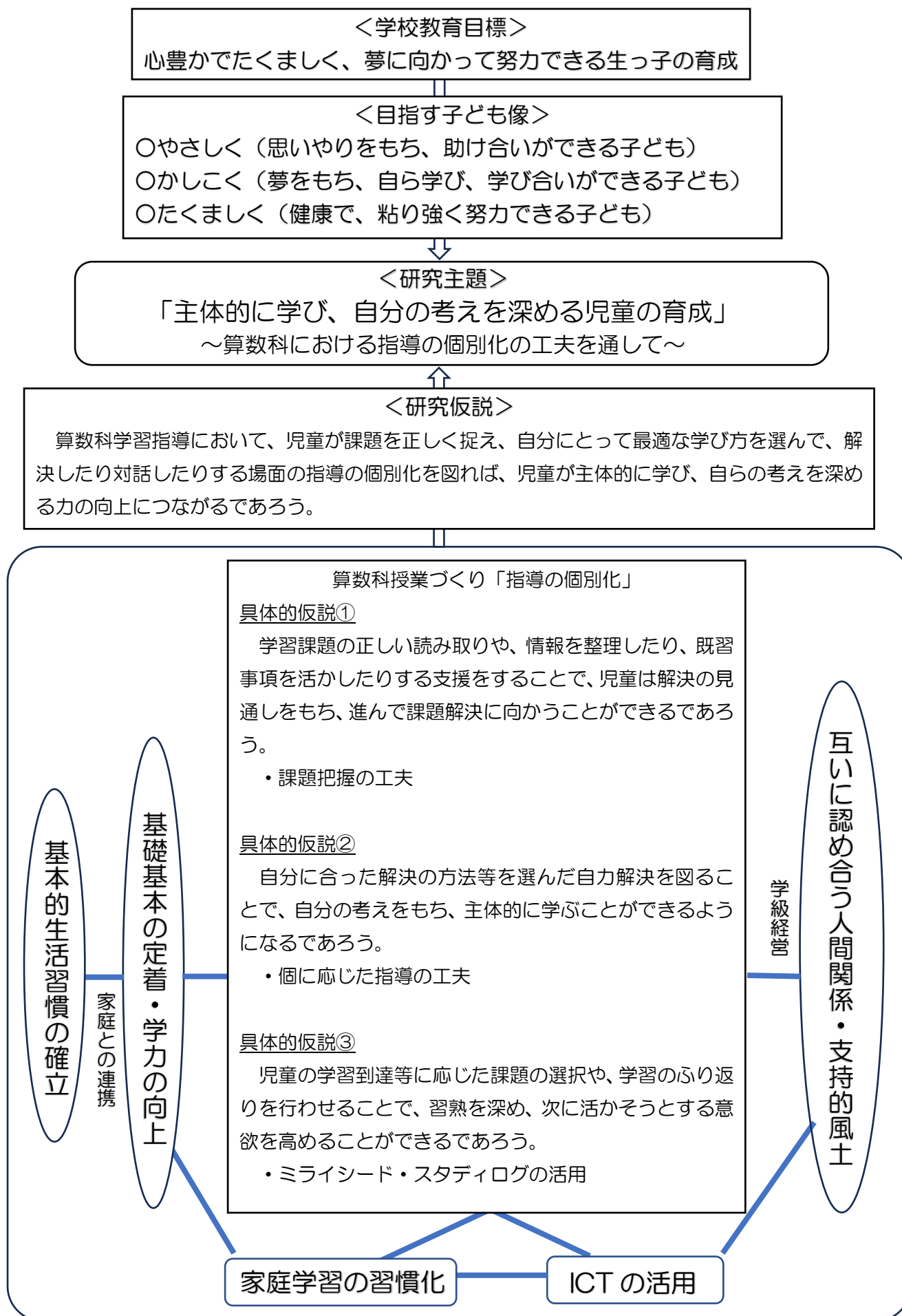
令和3年の答申では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について提唱されたが、これは授業の在り方に欠くことのできないキーワードであり、これらの一体的な充実を図ることが大切である。さらにその答申では、次のように示されている。

「指導の個別化」とは、一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めることであり、その中で、児童生徒自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことである。

以上のことから、課題把握や課題解決の過程で生じる子ども一人一人の学習進度や学習到達等に応じるため、子どもが自分に合った方法等で学ぶことができるように、教師の指導の工夫として「指導の個別化」が重要となる。

本校の児童の実態や個人差に対応した柔軟な指導を行うため、本年度は算数科における「指導の個別化」に重点を置いた授業改善を図りたい。そして、児童一人一人の基礎基本をよりよく定着させ、主体的に学び、自分の考えを深める児童のさらなる育成を目指したい。

## 2. 研究構想

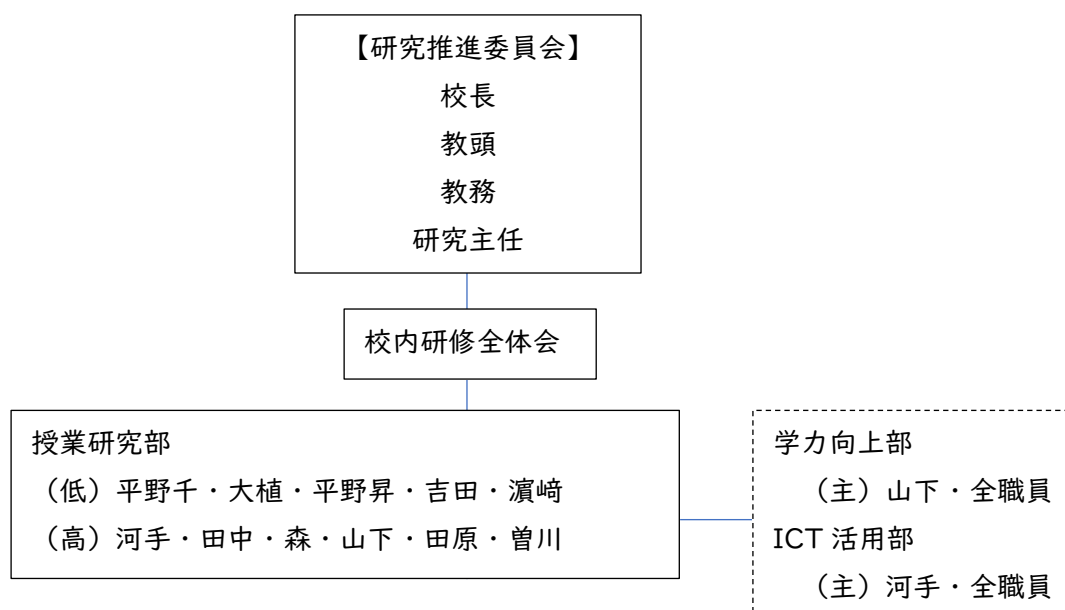


### 3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた目指す子どもの具体的な姿（昨年度提案分）

|         |                                           |
|---------|-------------------------------------------|
| 主体的に学ぶ姿 | ○課題解決の見通しをもち、方法などを選択して課題解決に向かう。           |
| 対話的に学ぶ姿 | ○自分の考えをもち、ペア学習や全体交流を通して、考えの共通点や違い、よさに気付く。 |
| 深い学びの姿  | ○考えのよさや理解し身に付けた知識・技能を活用して解決する。            |

校内研修と関連付け、児童の育成を目指すものとする。

### 4. 研究組織



### 5. 研究の内容

#### (1) 授業研究

- 全体授業…低・高学年から1学年ずつ行う。全体会での指導案検討、研究協議を行う。
  - 部会授業…全体授業を行わない学年は全員行う。部会での指導案検討、研究協議を行う。
- ※特別支援学級・通級指導教室…児童の実態を見て、授業公開とする。必要に応じて指導案検討会、研究協議を行う。

#### (2) 授業以外の取組（主担当が進める分を含む）

- 学力調査結果分析の活用
- 家庭学習の習慣化
- とびうおタイムの活用
- ICT 活用
- 現職教育（救命救急講習、人権教育、特別支援教育など）

### 6. 研究の検証方法

- 児童の学習の様子の変容
- 評価問題や学力調査の結果
- アンケートの実施 など

## ①授業の流れとポイント

- 毎時間「めあて」は必ず板書する。
- 子どもの言葉を拾って、つなげて「めあて」をつくる。
- 「めあて」の言葉は「まとめ」と対応させる。
- 対話学習を積極的に取り入れる。
- 対話学習は、ペア・グループなど形態やメンバー構成を工夫する。
- 子どもの言葉を拾って、つなげて「まとめ」をつくる。
- 学習をふり返り、汎用的な学びにつなげる。
- 「めあて」「まとめ」「ポイント（汎用的な学び）」については、必要に応じて取り入れる。
- 学習の感想や自己評価などふり返りの機会をもつ。

＜視点＞・わかったこと

- ・次に考えてみたいこと
- ・できるようになったこと
- ・友だちの考えをきいて思ったこと

## ②板書の仕方

- めあて…㊦青 まとめ…㊧赤 汎用的な学び…㊨黄 問題…㊩白
- めあて、まとめ、汎用的な学び、問題は上下線で囲む。

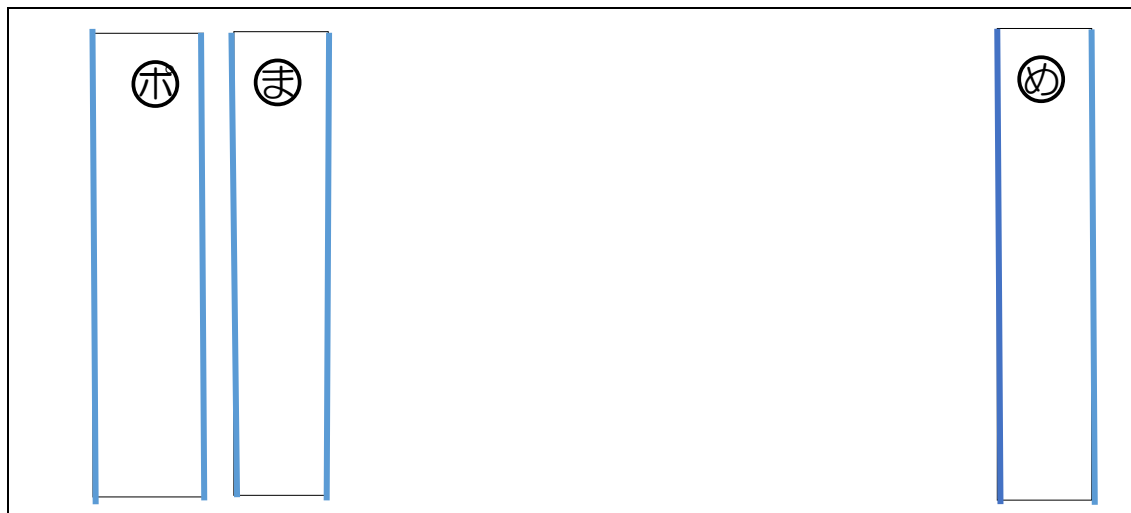
## ③ノート書き方（算数）

○/○

|                                      |                                     |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <p>㊩</p> <p>問題</p>                   | <p>㊧</p> <p>まとめ</p>                 |
| <p>㊦</p> <p>めあて</p>                  | <p>㊨</p> <p>→ 赤線で囲む</p> <p>練習問題</p> |
| <p>㊧</p> <p>→ 青線で囲む</p> <p>自分の考え</p> | <p>㊩</p> <p>ふり返り</p>                |

- ノートは、1ページ単位、見開き単位で使用し、日付が変わればページも次に進むように書く。
- 数字や文字は、1マス1文字を原則とする。
- 算数用具として、赤鉛筆、青鉛筆、定規を常備し、線は定規で引くことを徹底する。

### ③ノートの書き方（国語）



### ④授業のあいさつ

「姿勢。」「今から〇時間目の学習を始めます。」「よろしくお願いします。」  
「姿勢。」「これで〇時間目の学習を終わります。」「ありがとうございました。」

### ⑤学習道具について

○筆箱の中身

えんぴつ5本程度（B か2B）、消しゴム（シンプルなもの、香り・模様なし）、赤鉛筆、青鉛筆、ネームペン、定規（15cm 程度で2つに折れないもの）

※必要なもの以外は持ってこない。

※高学年は赤ペン、青ペンやマーカーペンを使用してよい。

※シャープペンは持ってこない。

※イラストやキャラクターの少ないシンプルなものが多い。

○はさみは担任が管理する。

○筆箱は引き出しの中に入れ、必要な筆記用具のみ机に出す。

えんぴつ、赤・青鉛筆（ペン）、消しゴム、定規、マーカー（必要な分）

○下じきを使用する。

### ⑥教室環境等について

○前面（黒板の上）には掲示物は貼らない。

○既習事項を掲示し、活用に努める。

○児童のタブレットは鍵のかかる教室で保管・管理する。